

平成 28 年度事業計画

学校法人 沖永学園

1. 学園の現状と基本方針

沖永学園は、創立以来社会のニーズに応えるため組織の設置・改善を重ね、現在では短期大学 1・高等学校 1・中学校 1・幼稚園 2 を擁している。「礼儀・努力・誠実」を建学の精神とし、帝京大学グループとしてのメリットも生かしつつ、人格を磨き社会で役立つ実学を重視する。

2. 教育研究に係わる課題と方針

(1) 帝京短期大学

①生活科学科

<生活科学専攻・養護教諭コース>

教員養成に向けて次のような取り組みをしている。渋谷区教育委員会と連携した実習や特別講義、スクールボランティア活動等を充実させ、学生の現場対応能力の向上に努める。平成 25 年度養護教諭 1 種免許の取得ができるように、専攻科養護教諭専攻（2 年課程）を開設し、さらに専門性や実践力の向上を目指している。専攻科では、渋谷区以外にも（世田谷区、府中市、横浜市など）積極的にスクールボランティア活動に参加し、実践的な学びを深めている。また、卒業生のリカレント教育の場として卒業教育にも力を入れると同時に、卒業生と在校生の交流を図り意欲的に学べる機会を設けている。

<生活科学専攻・生活文化コース>

学生の社会性育成のプログラムの精度を高めるため以下のように改善する。⑦科目「観光ビジネス論」を新設し、旅程管理主任者（ツアコンダクター）資格取得により、観光・ホテル業界への就職ルートを強化する。⑧科目「インターンシップ事前指導」を設け、インターンシップの明確な学修目標を定め、学修成果を確かにして、学生の就職力を強化する。⑨渋谷区社会教育会館、近隣商店組合や自治会との協定の下での地域発展事業への参加や、ささはたカフェと連携した地域コミュニケーションの促進により、学生の地域社会性を高める。

<食物栄養専攻>

昨年度の事業計画の一つに、給食管理実習(校外)において、学生が良好な学習成果を得るための学習計画および事前指導の充実を図ることを掲げた。平成 28 年度も引き続き、給食管理実習(校外)において、各学生が実りある現場体験が学習できるように、専門科目

の習得および事前指導の強化を図る。特に給食管理実習(校内)の科目で『給食の運営』について習得できるようにする。二つ目に、各教員が生活リズムの重要性に基づいた予習・復習活動を身に付けさせる指導を繰り返し行い、学生全体の学習成果の向上を図る。

②こども教育学科

学生の現場対応力強化を重点課題とする。具体的対応としては、渋谷区の教育委員会および子ども家庭部の協力による、実習に向けての第一歩として幼稚園・保育園での1日参加実習での指導強化および、ボランティア活動への参加、また、帝京こども教育研究会(平成21年発会・年3回実施)に参加し、講演・グループ幼稚園(4園)の研究発表を聞き現場を知り、さらに、短大に隣接する帝京めぐみ幼稚園での実習、連携を充実させる。既卒生も含めて公務員試験受験指導に力を入れる。

③ライフケア学科

<臨床検査専攻>

本年度より臨床検査技師業務拡大によるカリキュラム変更に伴い、「キャリアデザイン」や「チーム医療論」「ボランティア概論」など早い時期から将来医療に携わる意識を高める科目も取り入れてしっかりとしたモチベーションをもてるようなカリキュラム編成とした。ようやく定着してきた入学前スクーリングの内容をより充実させると共に、入学後学習面で遅れをとっている学生には適切な指導を行っていく

また、2年生に対しては、医療人として社会人として常識ある人材を育成することにより一層力を注いでいく。3年生は早い時期から国家試験に対応できる力を養い、一人も取りこぼすことなく国家試験合格を目指す。毎年実施している「先輩に聴こう!」は、学生にとって効果的なタイミングと内容にし、夢を現実にする一助とする。ソフト面だけでなく学内実習をより充実させるため実習機材の整備を行っていく。

<専攻科臨床工学専攻>

学位授与の要件を満たす専攻科として平成25年度から大学評価・学位授与機構の認定を受けている。臨床工学専攻では、広汎かつ高度な専門知識を有する人材を育成するために、工学の専門知識や技術ならびに医学の幅広い知識を修得できるよう授業の充実を図り、国家資格取得を目指す学生の専門性をさらに高める。

<柔道整復専攻>

本学の教育理念である「実学」に基づき実際に治す力を備えた柔道整復師の輩出を目指す。具体的な対策として平成20年から独自に取り組んできたOSCE(客観的臨床能力試験)、および2年次に行う臨床実習教育のさらなる充実を図っていく。

また「医療従事者としての人格形成」をモットーに知識、技術以外の教育についてもさらに充実させていく。授業や実習を通じて「当たり前のことが当たり前に見える」を目標に日常的な事柄から指導する。具体的には、身だしなみ、挨拶、学習習慣の確立等の基礎的な事項から医療面接等で求められるコミュニケーション能力の育成まで教員一丸となって指導に当たる。また、国家資格取得のため、模擬試験、授業時間外補講等のスケジュールおよび内容をさらに見直し、成績が下位の学生の学力向上のための支援体制を充実させる。

④通信教育課程

説明会、卒業生(同窓会)等を通じて学生募集活動を強化する。就職希望者に対する情報提供、フォロー体制を強化する。入学オリエンテーションの充実を図るとともに、在校生に対して、学生便覧、サブテキスト、帝短通信等を通じてレポート作成のポイントや注意点等への学習指導を充実させる。

(2) 帝京八王子中学・高等学校

知・徳・体の全人教育を、生徒の個性と発達段階に即して行い、健全な育成を期することを教育目標とする。努力をすべての礎として、教育目標達成の手段として校訓『礼儀・努力・誠実』を定め、入学した生徒が一人の例外もなく大きな成長を遂げて卒業し、更に希望進路を実現できるよう、面倒見よく愛情に裏打ちされた厳しさの中にも暖かさをもった教育・指導・助言を行う。また、それを実現させるため、教職員への研修をアクティブラーニング・教科指導研究・進路指導研究など、先進性を重視して計画的に参加・実施する。

平成28年4月より、特進医療系コースとして教育課程の合理化を行い、進路実績の向上を図り、より優れた教育を行い、それを広く地域社会に周知することにより、本校の教育に適性を持つ生徒のより多くの入学を実現させる。

(3) 帝京めぐみ幼稚園

遊びを中心とした生活を通して、一人ひとりに応じた総合的な指導を行う。そのためには、幼児理解に基づいた計画的な環境の構成によって幼児が主体的に取り組み、遊びへの意欲を持てるようにする。具体的には、身近な動物への触れ合いを通して「思いやり」「優しさ」の心を育み、命の大切さを学ぶ「動物介在教育」を引き続き実施する。また、帝京短期大学食物栄養専攻学生による給食を取り入れた食育を実施している。さらに、短大キャンパスを利用した活動や自然体験、花壇や畑作業、幼稚園内外の様々な人々とのかかわりなど、社会体験、直接的な体験のできる場を取り入れる。

(4) 帝京にしき幼稚園

幼児教育の質及び保育の専門性の自覚と資質の向上を目指す。そのためには、一人ひとりの幼児を理解するとともに自己を発揮する力を育めるような教育的な環境に配慮し、集団の中で個人が活かされるように、幼児同士がかかわり合うことのできる計画的な環境を構成する。具体的には、指導計画立案の充実を図り、幼児の発達を見通し、その発達が可能となるよう、それぞれの時期に必要な教育内容を明らかにし、計画性のある指導を行う。また、園行事や日常の活動を通して造形、身体、音楽など表現する楽しさや感動する心を育てる。

3. 教育環境の整備

帝京短期大学では、図書館内にラーニングコモンズを新設、少人数授業、グループワーク、学生発表等で活用し、学習効率の向上を図る。本年度は、通学課程と通信教育課程のシステムを統合させる。教職員間で通信教育課程の学生も含めて学生情報を共有し、多面的な学生指導に活用する。また、教室のOA機器の更新、実習機材の整備を順次進めていく。図書館では、蔵書管理システム・検索システムを更新し蔵書管理・検索の効率化を進める。増額した図書購入費のレベルを本年度も維持し、教育研究活動に資する書籍の購入を継続する。

帝京八王子中学・高等学校では、平成26年6月に新体育館「蔦永館」が竣工し、日々の体育の授業やクラブ活動はもちろん、伝統文化鑑賞会や吹奏楽部の演奏会・ダンス部の発表会など多目的に利用し、保護者や一般の来場者にも教育環境のアピールを行っている。

帝京にしき幼稚園では、園バス1台を大型車輛に変更し、園児・保護者の利便性を高める。

4. 学生支援の充実（帝京短期大学）

保健室に複数の非常勤養護教員を配し、個別学生の相談に親身に対応し学生相談支援委員会等を通じ担当教員と情報共有を行う。また、平成27年度からは帝京平成大学臨床心理センターが利用できることになり学生支援の一層の充実を図っている。学生相談支援委員会では、学生理解を深め指導に活かすために毎年全教職員を対象に研修会を開催している。

就職・進路指導にあたっては、キャリアサポートセンターが中心となって担当教員との連携のもと、学生をこまめにフォローすることで、全国短大平均を上回る就職率を目標とする。全員面談を実施し、適宜状況をフォローし就職・進学をサポートしていく。また、外部講師や新卒応援ハローワーク等と連携し就職指導の充実を図るとともに、内定者を囲んだ座談会や企業説明会等の機会も設けていく。

学業成績が優秀で学習意欲のある学生を支援するために、平成29年度入試から1年次特待生制度を新設する。また、在学生を対象とした現行の特別奨学金制度も充実させる。

5. 学生募集計画（帝京短期大学）

アドミッションポリシーに合致した学生を受入れるため、8月から3月にかけて、AO、推薦、一般、社会人など多様な入試制度を取り入れ、大学入試センター試験利用入試においても募集していく。6月に高校生と保護者を対象とした入試説明会を実施し、7～10月に開催するオープンキャンパスへと繋げている。新たな試みとして、平成27年度より高校2年生を対象とした春のオープンキャンパスを3月に実施する。また、教員自らが高校訪問を行い、本学の教育内容を説明するとともに募集活動に努めている。

また、インターネットやスマートフォンの普及に伴い、新聞や雑誌等の紙媒体からWeb媒体への移行をすすめ、より効果的な広報活動のためホームページ、スマートフォンサイトにも力を入れていく。さらに、見学者や電話の問い合わせに対し、懇切丁寧な対応をすることで志願者の増加に繋げていく。

6. 地域社会への貢献（帝京短期大学）

平成 27 年度より地域貢献推進室の事業展開によって、全学的に短期大学周辺地域の美化活動を実施している(美化活動は東京都、渋谷区と提携済)。また、渋谷区と地域の 10 商店街が設立した「ささはたカフェ」に参加し地域社会とのコミュニケーションを促進し、地域と短期大学の結びつきを深めている。平成 26 年度に発隊した帝京短期大学ボランティア隊は、代々木警察署や代々木安全協会と協働し一層活性化する。幡ヶ谷 6 号通り商店街と連携して導入している TJC チケットは、平成 28 年度から電子化し、商店街・短期大学学生双方にとってより利便性のある仕組みに変更する。

7. 自己点検・評価（帝京短期大学）

平成 27 年度に検討した授業評価の方法とアンケート項目について、28 年度より実施する。加えて授業評価アンケートの結果に対する報告書も新様式で、各担当科目教員が PDCA サイクルを検討・実行し、学習成果の報告書作成し提出することを計画している。自己点検・評価については、27 年度に引き続き「PDCA シート」により実施し、検討していく。

8. 平成 28 年度予算の概要

(1) 収入

短期大学の学納金は、複数の専攻での定員割れにより前年度予算比減収の見込み。帝京八王子中学・高等学校は在籍学生数減により前年度比減収、帝京めぐみ幼稚園、帝京にしき幼稚園の学納金はほぼ横ばいを見込む。沖永学園全体では、学納金は前年度予算比減収を見込む。

(2) 支出

各学校・幼稚園とも給与改定・定期昇給と、短期大学、幼稚園の教職員増員による人件費増を見込む。

(3) 事業活動収支差額

事業活動収支差額は、収入減少により前年度比減少となるが、法人全体では引き続き無難な水準を維持する見込みである。

以 上